

ロボティクス・メカトロニクス講演会2015 in Kyoto

田中研新聞

第22号

2015年
6月1日発行

2015年6月1日号
甲南大学知能情報学部田中研究室 毎月発行
http://carnation.is.konan-u.ac.jp
編集長・岡田 航大 (B4)
編集委員・吉岡 一樹 (M2)

田中研からは吉岡が参加

5月17日から19日まで京都のみやこめつせで行われた「ロボティクス・メカトロニクス講演会2015 in Kyoto」に参加してきました。私は5月19日の午前中に「屋外環境での自律移動型ロボットにおけるオクルージョンを考慮した人物追跡」というタイトルでポスター発表を行いました。簡単な発表内容ですが、ロボットが距離データを基に人物を追跡中に、追跡人物とロボットとの間に通行人などが横切り追跡人物を見失った場合、RGBカメラによって追跡人物の認識を行い再度追跡するという発表内容でした。当日の発表時間は9時30分から11時の間で2部構成



の発表でよかったです。聴衆者が多かったため後半の部でも発表を続けました。後半の部も発表し続けたので1時間半発表し続けたので、発表後は喉がからからでした(笑)。私の発表終了後は企業のブースや他の発表を聴衆していました。他の発表では水中ロボットの自己位置推

ちょっといい方法教えます

第3回新幹線の乗り方

私が甲南大学に赴任したのは1999年7月だから、新幹線通勤を始めて6月末でちょうど16年が経過する。その間JRにつき込んだ定期券代は、2千万を超える。一度に2千万と言われたらきつと躊躇するだろうが、3ヶ月定期1回分は33万8千円だから、高いなあと思いつつも買っているが、それを除いても1千万以上をつぎ込んだ。その間、出張や冬休み以外は夏も春も月曜から金曜までほぼ欠かさず通勤しているから、その回数は4千往復になる。もちろん、東京や九州出張などのときにも乗っており、新幹線の利用はこれだけではないが、朝岡山で乗る時刻、夕方新神戸で乗る時刻はほぼ決まっております。岡山を居住地とし、新神戸で下りて働くという形に限定すれば、エキスパートと称してもいいのではないかと自負している。

まず、岡山で乗るときには、のぞみ1号車の東京寄りの扉から乗る。座る場所

定や8足ロボットの歩行技術の発表などありました。私が携わっていない分野の技術でしたので新鮮で面白みがありました。私の知らない知識や考え方が知れて、私の研究にも役に立つような経験ができました。今後学会発表があれば、積極的に参加していきたいです。(吉岡一樹)

は、最もデッキ寄りの3列あるところの通路側C席が私の定位置である。1号車に乗る理由は、この時間、西から来る人はまだ下りる人がほとんどなく、乗り込んだところから順に席が埋まっていくからである。3

号車、2号車と、西に行くにつれて空いていき、1号車は月曜を除きがらがらである。私が岡山駅で並ぶ列のトップとは限らないが、不思議に客席内の一番東側に座る人は少なく、皆さん、奥までお進みになる。また、3列は不人気で、一人で座る人はまず山側の2列に座る。そこで、私の定位置はほぼ確実に空いている。私が座ると、私の前を通って奥のA席に座る人が出てくる。不便にも関わらず、奥に入りたい人は多い。朝座れなかったことは今まで一度だけあったがほぼないといっている。



問題点は、金曜日である。金曜日は週末に帰宅するサラリーマンなどが多く、非常に混んでおり、21時台でも油断はできない。金曜だけ運行する臨時列車は、たいてい混むのぞみの数分後に設定してあるが、これが不思議にあらがら。そこで、金曜は臨時列車を狙う。臨時列車はN700系ではなく、旧式の700系が多いため、旅行社が避けるのである。しかし、新神戸でわざわざ臨時列車を待つのは、すぐ次にくるときだけである。ないときは、最初から5号車か6号車あたりのデッキに立つつもりでそのあたりの扉から乗り込む。JRにこの記事を見られたらしかられるかもしれないが(自由席がいつぱいの時は自由席のデッキに立つように案内がある)、今まで指定席のデッキに立って注意されたことはない。同じ立っただけ空いているところに立ちたいものである。(田中雅博)

気になる便利グッズ

第1回トラックボールマウス

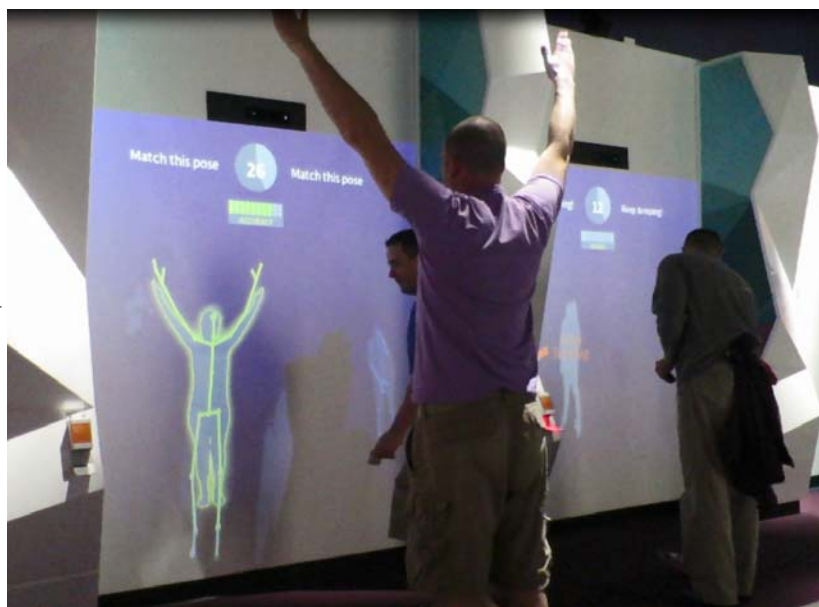
学内のPCサポートというアルバイトの仕事柄、よくパソコン関係の新製品や、便利グッズを目にする。ことが多く、「こういう商品があるのか」と勉強になるケースも少なくない。そして、本当に気になったものは自分でも購入するという事もある。

私のPCデスクは、セカンドモニターやペンタブがある都合でかなり狭く、マウスにとつて優しくない。で、とある先生が購入して以降、気になっていたトラックボールマウスを先日購入した。エレコム製のM-TURBKという商品で、有線のタイプだ。トラックボールマウスはマウスの裏側にボールがついておらず、その代わりに表側に大きなボールがついていて、それを動かすことでマウス操作をするものである。そのため、俊敏さが求められるマウス操作はできないので、オンラインゲームなどを行う人にはまったく向かないので注意が必要だ。写真は実際の製品と使用している場所を写したもので、マウスの下には大きな目安としてCDのケースを置いた。ほとんどCDケースの大きさと同じ広さしかとらない。この程度のスペースから一切動かさずとも操作でき、普段のマウス利用が俊敏さを求めない操作だけの私はトラックボールマウスが最適だったと言える。しかも、マウスパッドの状態を気にしなくてもいいので、どんな場所でも極端な話膝の上でも同じように操作できるので、かなりだらしな体制でマウスを操作することもあつた。こういったマウスにはボタンが複数ついているケースが多いが、ボタンに機能を割り当てることができ、ブラウザの「進む」「戻る」などが標準で設定されているため、インターネットを見る分にはとても便利だ。また、マウスの動かしすぎで腱鞘炎になったという事を聞いたことがあるが、それも防ぐことができる。ただし使っていて思うのが、このマウス腕は腱鞘炎にならないかもしれないが、指がすりそうになるので、結局のところ、どっちもどっちなのである。(岡田航大)



わたしの訪れた町

第14回 サンフランシスコとシリコンバレー



は、キネクトやカメラの応用システムがいろいろあり、非常に面白かった。写真は、テック博物館のキネクトの応用システムの1つである。スクリーンに示されたポーズを自分が取って、どれだけ忠実にポーズが出来たかを得点化するものだった。もう1つ、マウンテンビューの「コンピューター歴史博物館」を見たいと思いついたのだが、タクシーがなく、もちろんバスもなく（わずかに走っているが、土曜日はない）、3kmくらいを歩こうと決意して、半分くらい歩いた。アメリカの高級住宅地らしい、きれいな庭のある一戸建て住宅が建ち並ぶところを汗をかきながら半分位を歩いたが、途中からハイウェイのような広い道に出て、誰も歩いていないことに若干の不安を覚え、また、着いてもおそらく中を1時間も見ることなく閉館時間

前回紹介したパークレー出張の際に、航空機の都合で帰国前に土曜日の滞在を余儀なくされたので、シリコンバレーを訪れた。あのあたりの地理は行ってみたいとなかなかわかりにくい、シリコンバレーとは、スタンフォード大学やグーグル、フェイスブック、ヤフー、アップルなど、大学や先端企業が多数本拠地を持つエリアで、多くの小さい町から構成される。アメリカは完全な車社会であり、旅行者の私はパークレーに泊まりながらシリコンバレーの1日小旅行を計画したのだが、言うまでもなく、土曜日は企業も訪問を受け付けない。足に関しては、サンフランシスコからの長距離（と言うほどでもないが）バスはない。カルトレンという列車が2時間間に1本程度走っているだけで、おまけに、駅についてもバスもなく、タクシー



すら見当たらない。大変不便な思いをしながら、結局中をじっくり見られたのはサンノゼのテック博物館だけだった。テック博物館で

迎えることが予想されたので、あえなく断念し、同じ道を帰途についた。外国でこういう遊びをするのは危険であることを思い出したのだ。サンフランシスコは、基本的には、BARTという電車を使って空港から市内、さらにパークレーへも移動した。市内は30度近い勾配の坂が有名なので、フェリー乗り場から坂を上り、グレース大聖堂まで歩いてみた（写真の坂は南の方へ下りる道だが、こちらも負けず劣らずすごい）。金門橋を渡ると

不便なところに行くので結局渡らず、水族館の付近から遠く眺めただけだったが、サンフランシスコに行った実感があつた。また、フィッシャーマンズワーフでは数え切れない数のアシカが生息しており、第二次大戦で使われた軍艦も博物館になっており、中を見学した。シリコンバレーは、カルトレンを使えば、何とか旅行できることがわかった。次に来ることがあれば、今回行けなかったが見たかったところに行つてみたい。（田中雅博）

私は前に公開されていたWindows 10の試用版をインストールして使い勝手確かめた。Windows 8で不評だった為か、スタートボタンは復活しており、スタートボタンを開くと、Windows 7以前のものに、8のパネルを加えたようなものとなっている。よく使うアプリや、ニュースや天気などをタイルで設置しておくことが便利だ。また、同じく不評だった検索機能も7以前と同じような位置に設置されることになった。8ではアプリを起動すると、デスクトップの行き来がかなり面倒だったが、今回はデスクトップにアプリを浮かせることが可能で、このあたりも7以前と違和感なく使えた点だ。個人的にはコントロールパネルが廃止され、PC設定というものが統一されたというものが大変わかり辛い以外は満足できるUIだと感じた。私はその機能は知らなかったが、仮想デスクトップという機能も標準でついており、公開された情報によると1つのPCで複数のデスクトップを使い分けられることが可能というもので、デスクトップ1で開発画面を広

げ、休憩時間にデスクトップ2を使いインターネットで調べものをしたりするといった幅広い使い方ができる。ブラウザも従来のInternet Explorerではなく、Microsoft Edgeという新ブラウザになっている。ただし、IEはサービス終了するわけではないので、その点もうれしいことだ。アプリなので、位置情報やカメラ、マイクなどの使用権限もPC設定から弄ることができ、安全性も向上している。コマンドプロンプトも15年ぶりに大幅に手を加えられることになり、コピー&ペーストや、文字とウィンドウの大きさなど様々な設定を簡単に弄ることができるようになった。使用頻度が高い人にはうれしい機能となっているように感じた。

また今回一番大きいのはサポート期間を設けていない点にあると考える。Windows 7だと2020年1月14日に、同じく8は2023年1月10日にサポートを終える。XPの時は大きな買い替え時期になったように、サポート期間が終了すると、企業などは買い替えを余儀なくされる。サポート期間を設けていないという事は、デバイス

が壊れるまでは無料でセキュリティアップデートを供給してくれる事を意味するので、今回の無料アップデート対象外のEnterprise OSを導入している企業以外には多くの企業が7から10へのアップグレードを行うと予想される。OS自体の動作も軽いと感じました。また、iOSやAndroidのアプリを簡単に移植できる為、第3のスマートフォンOSとしての期待も高まっている。全体的には、かなり期待ができるOSになるのではないだろうか。メインで使っているマシンに入れるのはリスクが高いので、タブレットに正規版をいれてみようと思う。（岡田航大）

開始が7月29日に決まり、既にWindows 7・8、8.1を使っているユーザーはタスクバーの右側にWindowsマークが出てきている。ボタンを押すと、Windows 10の予約画面が出てくるようになっており、予約したユーザーは7月29日を迎えると自動的にダウンロードされる仕様となっている。そもそも何故9ではなく10なのか。諸説あるようだが、9は95や98と検索上で被ってしまうらしいというのが濃厚だ。今回のOSでは、今までのようにパソコンにはWindows、スマホにはWindows Phone、タブレットにはWindows RTといったようにデバイスでOSが分かれる事もなく全てが「Windows 10」で統一されることになった。ただし、正確には8インチ以上のデバイスには「Windows 10 for PC」が入り、8インチ未満のデバイスには「Windows 10 for small phone and small

良OSか悪OSか どうなるウィンドウズ10

「tablets」というものが入る。後者にはデスクトップがないので、デスクトップアプリは動作しない」と明言されている。Officeはすべてのデバイスで同じように動くの事なので、個人的にはそこがかなり嬉しい。Cortanaという音声アシスタント機能も内蔵され、Cortana単体でiOSやAndroidで使えるようにアプリ配布もすることが名言されている。

コマンドプロンプトのウィンドウのプレビュー

研究室対外活動予定

編集後記

岡田航大